

## 「インターネットと人権」 2月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

私たちは日々、新聞や雑誌、ネット記事など多くの情報を目にし、そして読んでいます。インターネットは、たくさん知りたい情報をすぐに知ることが出来る便利な手段です。また、人との交流の場として利用され、その利用者数も年々増加しており、現代の社会には欠かせないものになっています。しかし、便利さの一方でネット上では、匿名ということを利用して、誹謗中傷や差別的な書き込み、中には判断に迷うものや本当かなと疑ってしまうようになるようなさまざまなものがあります。全ての情報が正しければよいのですが、書き込まれた内容は、その真偽が確認されないままにたくさんの人に瞬時に伝わることもあり、誤った情報については、簡単に訂正や削除することができません。使い

方を間違えると、偏見や差別を助長し、人権問題につながりかねません。私たちは、被害者にも加害者にもなる危険性があります。自分も傷つかず他人も傷つけることのないよう、多様な情報を読み解き判断する力を身につけることは、とても大事なことです。そのため、掲載された情報を見聞きした時、すぐうのみにせず、複数の情報と見比べたりして、それが事実なのか個人の意見なのかを疑うことも必要になります。

世界中で多くの人が利用するインターネットは、使い方を誤ると多くの人々が傷ついたり、偏見や差別にさらされたりすることがあります。私たちの世界を広げてくれる欠かせないものだからこそ、インターネットに関わる人権問題について考えてみませんか。そして、その利用には、自分自身の責任が伴うことを認識し、

誰もが便利に快適に使えるよう努めたいものです。人は、お互いに支え合って生きていくのですから。

